

歯科衛生士コーナー

歯科衛生士として知っておきたい咬合の基礎知識

鶴見大学歯学部 歯周病学講座
鈴木 丈一郎

はじめに

歯科衛生士は、卒業して間もない頃は、歯肉の炎症にばかり注目してしまいがちです。プラークが付着しているかどうかも重要なポイントですが、歯周基本治療・メンテナンス・SPTを実践していく上で、歯肉を診るだけではいけません。患者の咬合状態も把握しなければ真のメンテナンス・SPTはあり得ませんし、そのためには咬合の基礎知識とエックス線写真の読影能力も身につけなければなりません。本稿では、「歯科衛生士として知っておきたい咬合の基礎知識」と題して、咬合状態の見方を解説したいと思います。誌面の都合上、エックス線写真の読影の仕方は記載できませんが、機会があればこの点に関してもいずれ解説できればと思っております。

用語の説明

咬合状態は、咬合関係と咬合様式を使用して表現されることが多く、また、歯周病と咬合の関係を理解する上では、早期接触、外傷性咬合と咬合性外傷も理解しておかなければなりません。咬合関係、咬合様式の代表的なものを以下に示します。

1. 咬合関係

1) オーバーバイト (図1)

咬頭嵌合位で上顎前歯の切縁と上顎白歯の頬側咬頭が下顎歯に対して垂直的に被さっている関係

2) オーバージェット (図1)

咬頭嵌合位で上顎前歯の切縁と上顎白歯の頬側咬頭が下顎歯に対して水平的に被さっている関係

3) 上顎前突 (図2)

上下前歯の前後的な隙間、つまりオーバー

ジェットが7~8 mm 以上もあるような不正状態の総称

4) 下顎前突 (図3)

上下前歯の咬合関係が正常と全く反対の状況、通常反対咬合といわれているものの総称

5) 開咬 (図4)

咬頭嵌合位で、上下顎の歯が数歯にわたって咬合接触しない状態

6) 交叉咬合 (図5)

上下歯列弓が水平的に交叉した不正をいう。上下正中線の不一致、臼歯部における近遠心関係の異常、頬舌的な反対咬合を伴っていることが多い

7) 過蓋咬合 (図6)

咬頭嵌合位において前歯部の被蓋が非常に深い不正状態をいう

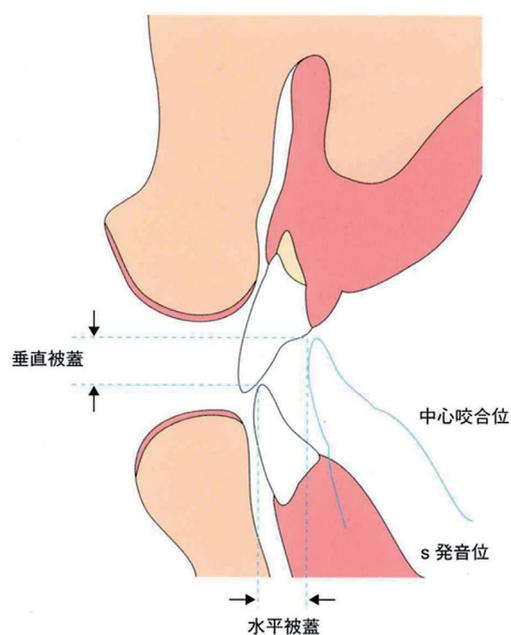


図1 オーバーバイトとオーバージェット*



図2 上顎前突**



図6 過蓋咬合



図3 下顎前突**

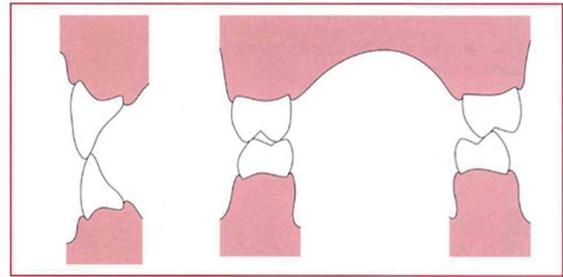


図7 フルバランスオクルージョン*



図4 開咬

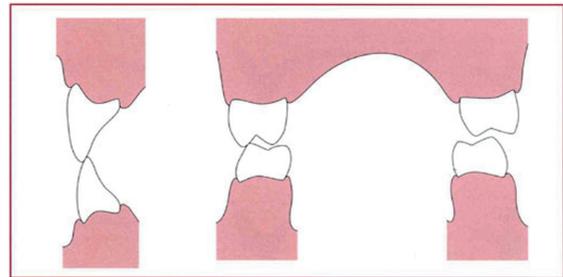


図8 グループファンクション*



図5 交叉咬合**

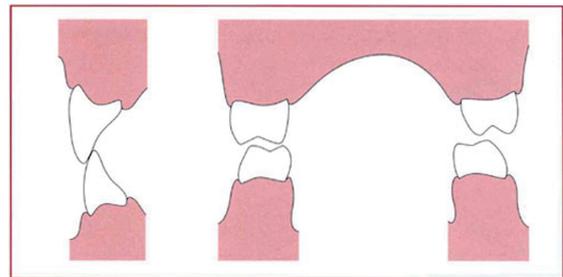


図9 犬歯誘導咬合*

* : 2002年歯科技工別冊「目で見る咬合の基礎知識」医歯薬出版より引用

** : 常盤矯正歯科医院 常盤妙子先生よりご提供

2. 咬合様式

側方運動時の歯の接触状態によって分類する。

- 1) フルバランスオクルージョン (FB) (図7)
作業側の歯だけではなく非作業側の歯も側方滑走運動時に接触している咬合様式
- 2) グループファンクション (GF) (図8)
側方滑走運動時に作業側の複数の歯が接触しているが、非作業側の歯は理解している咬合様式
- 3) 犬歯誘導咬合 (CP) (図9)
側方滑走運動時に作業側犬歯だけが接触している咬合様式

3. 早期接触, 外傷性咬合と咬合性外傷

- 1) 早期接触 (図10)
各顎位に達する前に1歯ないし数歯にわたり早期に歯が接触する場合を早期接触という。この早期接触により歯周組織が破壊された場合、特に外傷性咬合という。
- 2) 外傷性咬合と咬合性外傷 (図11)

外傷性咬合 (traumatic occlusion) と咬合性外傷 (occlusal trauma) は、言葉が類似しているため混同しやすく、両者は咬合力により組織に生じる外傷性変化について、その原因を示す言葉と結果を示す言葉であり、その内容を理解し区別して用いる必要があります。つまり外傷性咬合は、病変を起こす原因であり、早期接触、側方圧、ブラキシズム、舌の悪習癖などがあります。一方、咬合性外傷は、引き起こされた病変(結果)であり、歯根膜の変性・壊死、歯槽骨吸収などがあげられます。咬合性外傷には、一次性と二次性があり(表1)、外傷性咬合が加わることにより歯槽骨に垂直性の際のポイントとして、早期接触のある部位に以下の兆候がないかどうか検査します。

1. プロービングデプスが4 mm 以上あるか? (アタッチメントロスが認められるか?)
2. 歯の動揺があるか?
3. エックス線写真上で
 - 1) 歯槽骨の垂直性吸収があるか?
 - 2) 歯槽硬線の消失, 肥厚はないか?
 - 3) 歯根の吸収はないか?
 - 4) セメント質の肥厚はないか?

この情報を基に、最終的に外傷性咬合部位を決定します。

早期接触と外傷性咬合との関係

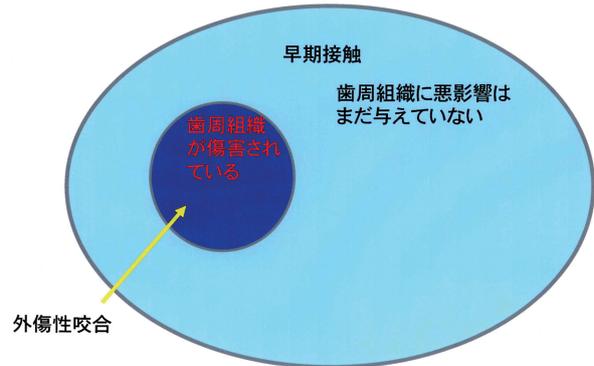


図10 早期接触と外傷性咬合の関係

咬合性外傷と外傷性咬合

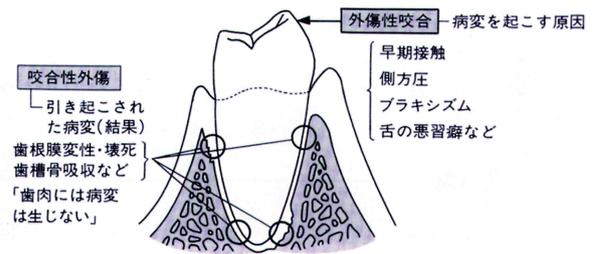


図11 咬合性外傷と外傷性咬合

一次性と二次性の違い

	咬合力	歯周組織
一次性的咬合性外傷	異常	正常
二次性的咬合性外傷	正常	異常

表1 一次性的咬合性外傷と二次性的咬合性外傷の違い

おわりに

歯科衛生士として、歯肉の炎症ばかり診ていては、真のメンテナンス・SPTは実践できません。咬合状態にも目を向けなければいけません。そのためにはエックス線写真読影能力も必要になります。歯肉の変

化を診る目・咬合状態を診る目・エックス線写真読影能力、この3つは歯科衛生士として身につけておかなければならない三種の神器だと思っております。この知識を知るだけで臨床の幅はかなり広がると思います。本稿が歯科衛生士のみなさまの日常臨床の一助になれば幸甚です。